

えっー、日本のエネルギー自給率 16.3%

～遠い国の紛争も身近な生活に影響～

今年 2 月にはじまったイスラエルとアメリカによるイラン攻撃（「2026 年イラン戦争」という。）は、ガソリン価格が高騰したり、石油由来の商品が品不足になったり、私たちの身の回りの生活に大きく影響しています。今回は、2026 イラン戦争の影響を絡めて、日本のエネルギー事情が抱える「弱点」について考えてみましょう。

化石エネルギーに高い依存

日本のエネルギー自給率（生活や経済活動に必要な一次エネルギーの割合）は、2024 年で 16.3%と低水準です。エネルギー全体のうち、石油・石炭・天然ガスの化石エネルギーへの依存が 84.7%となっています（資源エネルギー庁「2026 年エネルギー動向」。以下のデータも同様）。ドイツの自給率は 77.9%、英国は 75.4%、産油国であるアメリカでさえ、80.7%です。日本は、化石燃料のほとんどを輸入に頼り、しかも、石油の約 9 割は、イランのある「中東地域」の諸国から輸入しています（2025 年資源・エネルギー統計年報）。

このため、イラン戦争の影響は、とりわけ大きいといえましょう。「遠い国の出来事」では、済まされないのです。

私たちにもできること、省エネ

2026 イラン戦争は、私たちの電気や買い物の値段に直結する大問題です。

私たちが、これから先も安心して暮らしていくためには、特定の国や特定のエネルギーに頼りすぎない新しい仕組みを急いで作っていく必要があります。

まず、必要なことは、先進国の中でも高い化石エネルギーへの依存を減らすことや特定の国や地域のエネルギーに依存せず、調達先を世界に分散していくことです。

また、純国産である「太陽光発電」「風力発電」「燃料電池」「バイオマス」「地熱発電」などの再生可能エネルギーの活用を増やしていくことが大切です。

さらには、エネルギーを無駄にしないこと、省エネも重要です。学校や家で電気をこまめに消すことも、実は日本のエネルギーを守る立派な一歩です。

節電中



電源は、再生可能エネルギーを主に

2025 年 2 月、政府より日本の中長期的なエネルギー政策を定めた「第 7 次エネルギー基本計画」が発表されています。

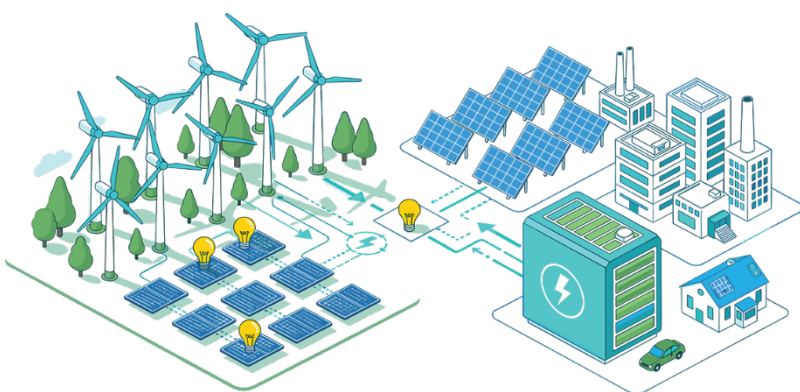
計画のポイントは、右表の 3 点です。安全性、すなわちエネルギーの安定供給と経済効率性、そして環境適合性・環境にやさしいことを配慮しながら、3つの視点で政策に取り組むとしています。

再生可能エネルギーによる電源構成は現在 22.9%ですが、計画ではこれを4割から5割に大幅に引き上げることを目標にしています（資源エネルギー庁・同計画概要による）。

水素等（アンモニア、合成メタン、合成燃料を含む）の次世代エネルギーも、CO₂ を発生させない脱炭素技術として、幅広い分野で活用が期待されています。2040 年、中学生のみなさんの中にも、こうした先進技術の分野で活躍している方もいるかもしれませんね。

（計画のポイント）

- 温室効果ガスを 2040 年までに 73%削減（2013 年比）
- 再生可能エネルギーを主力電源に
- 次世代エネルギーの利用拡大



栄東地区中学校クラブ紹介

栄中学校・吹奏楽部

「熱輝！・活輝！・やる輝！」をモットーにし、聴いてくださる人に楽しさや感動を伝えられるような演奏をしたいという思いで、日々練習に取り組んでいます。

また、コンクールやコンテストにも積極的に出場し、「全道金賞・全国大会出場」を目標にしています。1月に行われたアンサンブルコンテスト札幌地区大会では、金賞を受賞し、全道大会に出場することができました。

さらに、その全道大会でも見事金賞を受賞することができました。

部員は全員中学校から始めた初心者ですが、1人1人が仲間のために一生懸命努力し、目標に向かって頑張っています。日々活動できることや、応援してくださっている方々への感謝の気持ちを忘れずに、これからも活動していきます。

